

政策統括官（総合政策担当）

社会保障政策と労働政策については、それぞれの施策ごとのきめ細かい対応に加え、それを一体的にどのように進めていくかという視点が必要です。政策統括官（総合政策担当）は、このような観点から、厚生労働行政が目指す将来の姿を総合的に考える役割を担っています。数理職員は社会保障制度の企画・立案に必要な将来の全体像の推計や労働経済の分析などの分野で活躍しています。

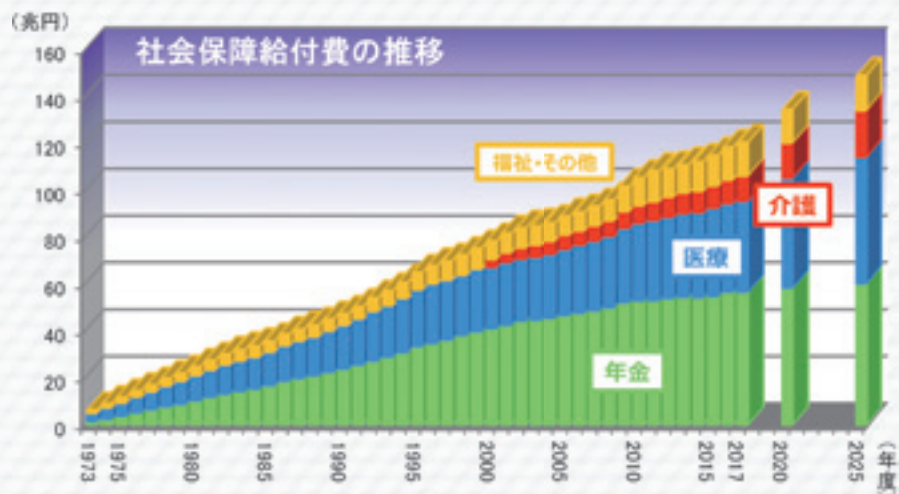
社会保障担当参事官室

社会保障の将来像を描くための道しるべに

グラフは、年金・医療・介護・福祉といった社会保障に関する国民への給付が過去どのように推移し、また将来どのような規模になるのかを示したものです。

高齢化が進むのに合わせて、社会保障の費用は急速に上昇していきます。その中で、我が国の社会保障が将来どうあるべきか、その財源はどう考えるべきかといった問題を総合的に検討しています。

数理職員は、いくつもの社会保障制度をすべて重ね合わせてこのような将来見通しを作成することにより、社会保障の全体像を描くための重要な役割を果たしています。



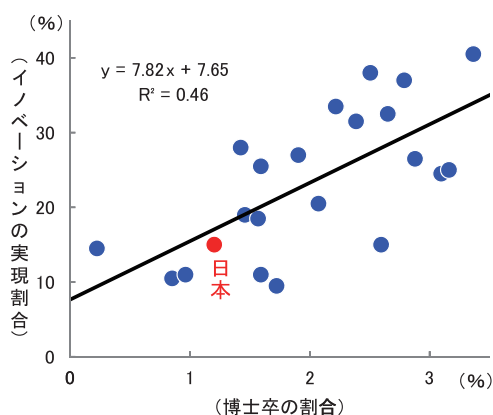
労働政策担当参事官室

戦略的な労働政策、機動的な対策を実施するための労働経済の分析

社会経済構造の変化を的確に捉え、これに対応するため、労働経済情勢についての分析・検討や労働経済白書の作成などを行っています。平成29年版労働経済白書は「イノベーションの促進とワーク・ライフ・バランスの実現に向けた課題」というテーマで分析を行っています（下のグラフは「博士卒の割合とイノベーションの実現割合との関係」及び「配偶者の育児参加と弟妹のいる割合」をみたものです。）。

数理職員は、このような経済分析作業にも携わっています。

各国の博士卒の割合とイノベーションの実現の関係



配偶者の育児参加と弟妹のいる割合

※2010年に生まれた子の下に弟妹のいる割合

